



株式会社トネ製作所

TEL.03-3895-7791 FAX.03-3895-7808

URL <http://www.tone-ss.co.jp/>



利根 通
代表取締役社長

代表者：代表取締役社長 利根 通

所在地：〒116-0001 荒川区町屋8-13-6

資本金：1,000万円

従業員：15人

創業年：昭和36年

業種：金属加工業

事業内容：精密板金加工、金属プレス加工

顧客の厚い信頼を得る

先代社長（現社長の父親）の個人事業の時代を経て、昭和44年に有限会社トネ製作所として発足した。以来、精密板金加工一筋で50年。この間、最新の機械設備と熟練の技能に基づく高品質なモノづくりに徹して、顧客の厚い信頼を得て今日に至る。現在、各種建築物の自動ドア駆動金具、ATM（現金自動預払機）の機構部品、電車ホームドアの機構部分をはじめ、多種多様な板金加工品を製造している。令和元年6月には同社初のB to C（対消費者）製品となる生卵かき混ぜ器具「ときこち」を商品化した。B to B（企業間）とB to C二つの市場を開拓し令和の新時代を駆け抜ける。

同社本社工場を訪ねると、レーザー複合加工機、タレットパンチプレス、NCベンダー加工機をはじめ各種の工作機械が、所狭しと並んでいる。中には、他社に先んじて導入した新鋭



新鋭機が揃った工場内

機も少なくない。最新の機械群と、半世紀の間、この道一筋を歩んだことで培われた熟練の技能・ノウハウ。その合わせ技により、顧客の要求水準を上回る高品質なものづくりを続けてきている。

初のB to C製品「ときこち」を発売

そんな同社が設立50周年に当たる令和元年に、初のB to C製品「ときこち」を世に出した。ときこちは中程度のスプーンほどの大きさで、その先端部分の形状がミソ。楕円と正円の二つのリングが重なったような恰好をしていて、二つのリングで卵の白身と黄身を切るようにかき混ぜると、白身の塊が残らない滑らかな溶き卵ができてあがる。

「私の妻が、白身のドロツとした部分が苦手で、どうしたらドロツとした部分を



卵かきまぜ器具「ときこち」

なくせるか、試行錯誤を繰り返し、ときこちに行き着いた」（利根社長）と、消費者・ユーザー目線で生み出した同品は、テレビ東京「WBS（ワールド・ビジネス・サテライト）」の人気コーナー「トシたま」や、日テレ「ぶらり途中下車の旅」、ケーブルTV「あらまるNEXT」で紹介されるなどで急激に認知度を高めている。同社では、卵かけご飯、卵焼き、オムレツ、すき焼きなど、卵を使う料理で広く活用できるとみて、一般家庭向け、飲食店向け、ギフト用など広範な需要を掘り起こしている。

なお、パッケージや印刷物は荒川区内の企業にて製作協力してもらおうなど、荒川区の絆でときこちは作られている。

顧客が顧客を呼ぶ好循環つくる

顧客の注文に応えるだけでなく、顧客の気が付かない点にも目を配り、改善を提案するといった「提案力」が強みだと自負している。提案するには、最先端の技術、知識が必要なため、設備投資にはかねてより力を入れている。都内で初めての最新鋭機を導入したこともある。一方、どんな最新鋭機でも最後は人手により仕上げる部分が残るので、人材の育成が欠かせない。当社にはベテラン、中堅、若手が揃っており、技能伝承を常に心がけている。最新鋭機と社員の技術・ノウハウを駆使し、最良のモノづくりに励み、顧客に納めることで、顧客が顧客を呼ぶ好循環が生まれている。

◎主な保有設備

ディスクレーザー複合加工機（TruMatic 3000 fiber）1台、CO2レーザー複合加工機（TRUMATIC L 2530 Plus）1台、タレットパンチプレス（EM255NT）1台、110tプレス機（OBS110他）2台、NCベンダー（TruBend7036、FBDⅢ8020NT、FBDⅢ5012NT、HDS5020NT）各1台

究極の卵かけご飯を作るツールの板金加工プロセス。

精度の高いレーザー加工と職人の研磨技術で作る最高の「ときこち」。

紹介動画へのQRコード

